

令和6年度平和館特別展「沖縄戦と戦後の米国統治」を開催します

川崎市平和館では、広く市民に戦争の悲惨さを伝えるとともに平和に対する理解を深めることを目的に、終戦の日（8月15日）の前後を期間として、特別展を毎年開催しています。

令和6年度は、一般住民を巻き込んだ凄惨な地上戦が行われ、県民の四人に一人が亡くなったといわれる「沖縄戦」と、日本復帰まで27年間「米国統治下に置かれた沖縄」をテーマに取り上げ、展示を通して日本の戦争と沖縄の戦後について再認識し、平和への思いを深める機会を提供します。

関連イベントの講演会では、米国統治下の沖縄で無料配布された広報宣伝誌『守礼の光』を素材に情報を読み解く能力（メディア・リテラシー）の大切さを考えます。

1 特別展 沖縄戦と戦後の米国統治

- (1) 期 間 令和6年7月20日（土）～8月25日（日） 9時から17時まで
（月曜日、8月13日（火）、8月20日（火）は閉館。ただし8月12日（月）は開館）
- (2) 場 所 川崎市平和館 屋内広場（川崎市中原区木月住吉町33-1） ※入場無料・申込不要
- (3) 内 容 沖縄戦の写真、経験者が描いた沖縄戦の絵、沖縄戦の記憶をカラー化した写真、米国統治下の沖縄で起こった出来事を撮影した写真、広報宣伝誌『守礼の光』の誌面・掲載写真、伝単（米軍が散布した宣伝ビラ）・B型軍票（米軍が発行した円表示の紙幣）・日本渡航証明書（パスポート）等の実物資料（複製）など

2 関連イベント（講演会）

日本復帰前の沖縄で米軍が編集した広報宣伝誌『守礼の光』の掲載写真から、そこに込められた統治者「米国」の意図やメッセージを読み解きます。

- (1) 日 時 令和6年7月20日（土） 13時30分から14時30分まで
- (2) 場 所 川崎市平和館 屋内広場 ※参加無料
- (3) 講 題 米軍のプロパガンダ誌『守礼の光』を読み解く
- (4) 講 師 古波藏 契（こはぐら けい）氏（明治学院大学社会学部付属研究所研究員）
- (5) 定 員 50人（当日先着順）

3 主催 川崎市

- 4 アクセス JR南武線・JR横須賀線・東急東横線・目黒線「武蔵小杉駅」、東急東横線・目黒線「元住吉駅」から徒歩約10分

問合せ先
川崎市市民文化局平和館 富永
電 話 044-433-0171

沖縄戦と戦後の米国統治



1945年5月17日、沖縄・那覇で民家を破壊しながら進撃するアメリカ軍。

【撮影: 米軍】【写真カラー化: 「記憶の解凍」プロジェクト 渡邊英徳】



1969年6月5日、銃剣スト。基地従業員を制圧する米兵。

【提供 沖縄県平和祈念資料館】

令和6年 7月20日(土)～8月25日(日) **入場無料**

午前9時～午後5時 (毎週月曜日と8月13日(火)、8月20日(火)は閉館。ただし8月12日(月)は開館)

関連イベント

米軍のプロパガンダ誌『守礼の光』を読み解く

講師: 古波藏 契(こはぐら けい)氏(明治学院大学社会学部附属研究所研究員)

開催日時: 7月20日(土): 午後1時30分～2時30分

会場: 川崎市平和館 屋内広場

日本復帰前の沖縄で米軍が編集した広報宣伝誌『守礼の光』の掲載写真から、そこに込められた統治者「米国」の意図やメッセージを読み解きます。

無料
申込不要
先着50名

川崎市平和館では、広く市民に戦争の悲惨さを伝えるとともに平和に対する理解を深めることを目的に、終戦の日(8月15日)の前後を期間として、特別展を毎年開催しています。

令和6年度は、一般住民を巻き込んだ凄惨な地上戦が行われ、県民の四人に一人が亡くなったといわれる「沖縄戦」と、沖縄が戦後27年間の米国統治を経て日本復帰を果たすまでの住民の様子や出来事を、写真パネル、絵画、実物資料などで展示します。展示を通して日本の戦争と沖縄の戦後について再認識し、平和への思いを深める機会となれば幸いです。

関連イベントの講演会では、米国統治下の沖縄で無料配布された広報宣伝誌『守礼の光』を素材に情報を読み解く能力(メディア・リテラシー)の大切さを考えます。



川崎市平和館

川崎市中原区木月住吉町
33-1

TEL: 044-433-0171

FAX: 044-433-0232

【交通】

JR線・東急線「武蔵小杉駅」東急線「元住吉駅」から徒歩約10分